

草の根通信

Vol.79 (2014年7月1日発行)

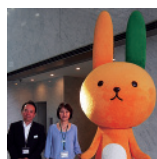


P12 事務局だより

劇団四季 ファミリーミュージカル
『ジョン万次郎の夢』開幕!

P12 協賛企業一覧

平成25年度寄附協賛企業一覧



P10

協賛企業訪問シリーズ
第二回 「明治安田生命保険相互会社」

P08

寄稿「万次郎と東一郎」その①

ジョン万次郎・江東の会 塚本宏

P06

しまね大会 その後の Good News!
「松江とテキサスの高校生が交流開始!」

エリザベス・コントレラス

P04

日米草の根交流サミット2014・サンディエゴ大会
TOMODACHIイニシアチブ、東京倶楽部などの支援を
受け、普代村(岩手)と広野町(福島)の中学生も参加!

P03

トン首席公使公邸にて
CIEのためのレセプション開催





次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、
様々なビジネスを創造してきました。
それでも、まだまだ成長過程。
人のため、社会のために、
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、
ひとつの思いから。

www.mitsubishicorp.com

 三菱商事

トン首席公使公邸にてCIEのためのレセプション開催



トン首席公使ご夫妻

アメリカ大使館

トン首席公使公邸にてCIEのためのレセプション開催

去る5月15日(木)、長年にわたって日米間で草の根交流を促進してきたジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根交流センター(CIE)のために、アメリカ大使館の首席公使カート・トン氏が、自身の公邸にてディナー・レセプションを開催してくださいました。招待を受けて参加したのは、CIEの協賛企業、日米で事業を展開する企業やNPO関係者、CIE役員など、約50名。

トン首席公使は、2012年のノース・テキサス大会、2013年の島根大会にもご自身がオープニング式典や歓迎レセプションに参加された経験から、「日米草の根交流サミットは、素晴らしい催し。私自身もとても楽しむことができました」と挨拶されました。

渡邊泰造CIE理事長による挨拶の後、轟木事務局長のプレゼンテーションでCIEの活動を紹介。その後、榎原稔CIE理事がトン夫人に花束を贈呈し、参加者に今後も引き続きご協力をいただけるように挨拶しました。

参加者は公邸の素晴らしい室内や美しい庭園で、主催者であるカート・トン夫妻の暖かなおもてなしを受け、リラックスしながら夕食を楽しみました。



トン夫人(右)と談笑する渡邊理事長(左)



榎原理事が感謝をこめてご挨拶



中濱京さん(左端)、トン夫妻(後列左から2番目と中央)とゲスト達



CIEの活動を紹介



庭園でもリラックス



紹介を受けた万次郎5代目の中濱京評議員(左から3番め)

日米草の根交流サミット2014・サンディエゴ大会

日米草の根交流サミット2014・サンディエゴ大会

TOMODACHIイニシアチブ、東京倶楽部などの支援を受け、 普代村（岩手）と広野町（福島）の中学生も参加！



合唱する広野町の中学生

今年9月23日から30日まで開催される草の根サミット・サンディエゴ大会に、岩手県普代村の民族芸能「鶴鳥神楽(うのとりにかぐら)」を伝承する普代村中学校の同好会メンバー20名と、福島県広野町の中学3年生16名が参加することが決定しました。

普代村の生徒達は、地元に残る「鶴鳥七頭舞(うのとりにななずまい)」を、開会式が行われるペトコ・パーク(メジャーリーグ球団・パドレスの本拠地)で披露する予定です。

また、広野町は「とんぼのめがね」や「汽車」などの童謡・唱歌の作詞で知られる額賀誠志氏が同町で医師をしていたことから、「童謡の里」としても知られており、広野中学校の生徒達は開会式で合唱を披露する予定です。

普代村と広野町の生徒達は、大会期間中は「万次郎とホイットフィールド船長の子孫によるワークショップ」、「ペリー提督子孫とペリー研究家によるワークショップ」、またサンディエゴの生徒との「将来のエネルギー」に関するディスカッション、「京セラ・ソーラー」などの現地企業訪問、現地大学訪問と留学生との交流、帆船カリフォルニア号に乗船しての洋上教育プログラムなど、数々のプログラムに参加する予定です。もちろん、大会期間中3泊はホームステイ体験です。また、大会後も地元の生徒達と交流が継続できるよう、エネルギーについての「共通の課題」も設定して取り組んでいく計画です。

普代村の中学生の参加は、TOMODACHIイニシアチブを通しての三菱商事株式会社・トヨタ自動車株式会社・株式会社日立製作所からの助成金、また一般社団法人東京倶楽部からの助成金によって可能となりました。広野町の中学生の参加は、同様にTOMODACHIイニシアチブを通じた日本航空株式会社、京セラ株式会社からのご支援、また複数の企業のご寄付によって可能となりました。

現在、中学生達は渡米に胸を膨らませ、日米の皆様にご披露する七頭舞、合唱をそれぞれ練習をしているところです。

※TOMODACHIイニシアチブとは

TOMODACHIイニシアチブとは、公益財団法人 米日カウンシル-ジャパンと東京の米国大使館が主導する官民パートナーシップです。東日本大震災後の日本の復興支援から生まれ、教育、文化交流、リーダーシップといったプログラムを通して、日米の次世代のリーダーの育成を目指しています。<http://usjapantomodachi.org/ja/>



七頭舞を踊る中学生



最近、地球って小さくなった？

ANA HANEDA



世界10都市大增便!

ANAの羽田国際線がついに世界10都市大增便! 羽田から海外、がいよいよ常識になってきました。行きも近い、帰りも近い。これは快適としか言いようがありません。日本のために、あなたのビジネスのために、羽田の国際化、どんどん進みます。

【新規就航都市】	バンクーバー / ハノイ	【アジア】	マニラ / ジャカルタ / バンコク / シンガポール
【ヨーロッパ】	パリ / フランクフルト / ミュンヘン / ロンドン	いよいよ3月30日から	

ANA Inspiration of JAPAN | A STAR ALLIANCE MEMBER 

最高評価「5スター」を2年連続で獲得。
ANAは日本で唯一の5スターエアラインです。



しまね大会、その後のGood News!

松江とテキサスの高校生が交流開始!

エリザベス・コントララス

2013年の日米草の根交流サミット・しまね大会に参加した高校教師のエリザベス・コントララスさんは、2014年3月、テキサスからご自身の生徒を連れて再び島根を訪問しました。再訪問にいたるプロセス、その後の交流などについて、CIE事務局に文章を寄せてくださったのでご紹介いたします。



世界にはきれいな場所が沢山ありますが、美しい自然と、豊かな文化、さらに誰にも勝る心の温かさと優しさを持つ人々、この全てを兼ねそろえた国はそう多くはありません。そして日本はそんな国の一つだと思います。日米草の根交流サミットは、そんな日本の素晴らしさが凝縮された催しです。私は自分自身の体験からそれを確信しました。



シングレイ高校の生徒達も浴衣を着て集合写真。

私はテキサス州アービン市のジャック・E・シングレイ高校で教鞭をとっているエリザベス・コントララスです。2013年夏に開催された「日米草の根交流サミット・しまね大会」に参加しました。この大会は、まさに私の人生を変えた体験となりました。大会中、江津市と松江市に滞在し、そこで素晴らしい方達と出会い、友情の絆を結びました。美しい景色、街並み、そして何よりも素晴らしい人々に魅了された私にとって、島根は特別な場所となりました。

帰国後、どうしても自分の生徒たちを日本、とりわけ島根へ連れて行かなければという強い思いに駆られました。是非私と同じ体験をしてもらいたい、そして私のように日本を大好きになってほしいと思ったのです。「CIEの設立と、日米草の根交流サミットの開催は、日米市民の間に強い友情を育み、両国の絆を深めることを使命としている」という、大会の閉会式で語られた言葉がいつまでも私の耳の奥で鳴り響いています。私はその使命を自分の学校に持ち帰ることにしました。以前から自分の学校と日本の高校との間に姉妹校関係を築きたいと願っていましたが、この大会に参加して、そのきっかけをつかむことが出来たのです。早速CIEの事務局に連絡を取り、相談に乗っていただきました。

CIE事務局は、私の夢の実現に向かってたゆまぬ努力を払って下さいました。島根県庁文化国際課を通して複数の学校と連絡して下さい、再び島根県、特に松江を訪れたいという私の願いを大切にして下さいました。そしてついに2013年秋、松江市にある開星高校の理事である川上大先生と私を引き合わせて下さいました。開星高校は私立高校で、国際的視野を持った学校です。川上先生のご協力のもと、2014年3月には我が校の優秀な生徒4名を連れて開星高校を訪れることが出来ました。日本へ向けて旅立ったのは、ジェット・ライル、レイチェル・メディーナ、アイマン・モハメドとアイシャ・モハメドでした。日本では松江に4日間、広島に2日間、そして東京に2日間滞在しました。松江では開星高校と松江城へ、広島では平和記念公園と宮島へ、そして東京では泉岳寺と東京スカイツリーへ行きました。



松江城にて。サミットのクロージング・レセプションに出演してくれた若武者隊の方々との偶然再会。

しまね大会、その後のGood News!

レイチェル曰く、「日本への旅は素晴らしい体験でした。一生忘れることがないと思います」。何もかもが衝撃的でしたが、中でも開星高校への訪問は最も感動的で感銘の深いものになりました。生徒達は心から私達を歓迎し、大切なお客様としてもてなして下さいました。漢字の書き方を始め、伝統的な織物や紙風船の作り方を教わり、紙芝居を見、新聞に取り上げられ、茶席に招かれ、そのうえ開星インターナショナルクラブのアメリカンゲームやダンスまで教えてもらいました。さらにシングレイ高校の数学クラブの部長を務めるジェット・ライルの為に、川上先生は私達を数学の授業に参加させて下さいました。しかも私達の為に、数学の授業は全て英語で行われました。授業終了後、ジェットは記念に日本語で書かれた数学の教科書を2冊いただきました。また、校長先生との会食に誘っていただき、2日目には、私が草の根サミットでお世話になったホストファミリーにも声をかけて下さってみんなで鍋を囲み、さらには回転ずしの食べ方も教えていただきました。



日米の生徒達はすっかり打ち解けて交流を楽しみました。



開星高校の皆さんから大歓迎を受けました。

私の生徒達は日本で会った全ての方達の心の温かさとその親切さに感極まってしまいました。開星高校では沢山の生徒達に囲まれ、世界で最も大切な人として扱われ、言葉や文化、国籍を超えた友情が芽生えました。教室でも廊下でも一緒に写真を撮ったりおしゃべりをしたり、友達になりたがる明るくて元気な生徒達に声をかけられました。まさにそれはCIEの使命の実現でした。新しい友情が芽生え、その絆が深まったのです。今は、その絆が時間と共に薄れていかないことを願っています。生徒の一人であるアイシャは、「素晴らしい旅でした。この旅に参加していなければ決して出会うことのなかった人々と知り合い、みんなとても優しい方たちでした。また日本に会いに行きたいです」と述べていますが、私も同感です。



広島では、原爆ドームや平和公園も訪問しました。

松江からは新幹線さくらで広島に渡り、その後東京へ行きました。生徒達は行き先々で出会った若物達とすかさず友達になりました。日本文化の素晴らしさをありとあらゆる所で感じました。爆心地に案内して下さった被爆者の方も、道を聞いた際に3ブロック先まで連れて行って下さった親切な紳士も、仕事の手を休めて私達の望みに応えてくれた色々なお店の方々も、どこへ行っても私達は国籍の違いなど全く感じられない、笑顔に満ち溢れた心温まるやさしい人々に迎えられました。「こんなに謙虚で感じのいい人達に出会ったことはないです。まるで自分の故郷にいるような気持ちにさせてくれました」と、アイマンは振り返っています。

来年の12月には、開星高校の生徒達がシングレイ高校を訪れ、1週間ほど我が校で勉強をして帰る予定です。滞在中には、地元の大学や企業、博物館を案内する予定です。さらにお互いの絆を深めるために、姉妹校としての関係を結ぶことを望んでいるところです。そして2016年にはもっとたくさんの生徒を連れて私は再び開星高校を訪れたいと願っています。

私の人生、そして生徒達の人生をも変えてくれたこうした体験を決して忘れることはありません。これは私が島根での草の根サミット大会に参加していなければ実現しなかったことで、この機会を作ってくださった全ての皆様に感謝いたします。参加したジェットは、「日本の好きなのは、地域の人々の団結が強いこと。人々が固い絆で結ばれている社会がとてもいいと思います」と述べています。今では、日本を訪問した私達も皆さんと絆で結ばれたと感じています。

(翻訳：下山淳子)

寄稿「万次郎と東一郎」

ジョン万次郎・江東の会 塚本 宏



中濱東一郎

今号と次号に分けて、中濱万次郎の長男、中濱東一郎を長年にわたって研究してこられた医学博士、塚本宏さんから寄稿いただいた「万次郎と東一郎」を掲載いたします。

塚本さんは、大阪大学医学部を卒業後、明治生命(現・明治安田生命)に入社。医務部長や同社取締役を経て、明治生命厚生事業団(現・明治安田厚生事業団)理事長、日本保険医学会会長(第25代)などを歴任されました。日本保険医学会の前身、日本保険医協会初代会長であった東一郎の日記をまとめた「中濱東一郎日記全5巻」(1992-1995)の刊行にあたって尽力されました。

現在は、日本と米国の保険医学会の名誉会員であるとともに、「ジョン万次郎・江東の会」の会員としても活躍されています。

その①

「東一郎とはどんな人物か？」

中濱東一郎(1857-1937)は、われらがジョン万次郎の長男として、芝・新線座の江川邸内で生まれました。万次郎の子供、7人の中ではずば抜けて優秀でした。彼を一言で表現するなら、明治・大正・昭和にかけての「マルチ人間」だったと言えるでしょう。

父譲りの語学の才能をいち早く開花させ、15才には横浜十全病院で英語の通訳を務める傍ら医学も学び、実母の鉄が麻疹で早世したと相まって、東京大学・医学部に進みます。明治14年に第3席の優等生で卒業後(因みに同級生の森鷗外は第8席)、直に地方の医学校(須賀川、岡山、金沢)の校長・教授を経て、内務省衛生局からドイツに留学します(明治18年)。目的は、衛生学の食物・栄養学や、上下水道施設の調査研究でした。



森鷗外

明治22年、帰国後はペッテンコーフェル、コッホ両先生直伝の衛生学、細菌学を駆使して目覚ましい活躍をします。同門だった緒方正規、森鷗外、小池正直らとともに衛生学草創期の基盤づくりに大きな貢献をしました。2年後には医学博士(「末は博士か大臣か」の頃の)を受領して、紛れもない名医の一人となりました。

内務省衛生局の官僚として、赤痢、コレラなど伝染病防疫のため東奔西走して、現地警察官とともに精力的に指導に当たりました(いわゆる「警察衛生時代」)。同時に、「バイキン」を啓蒙する衛生講演会を各地で催して、教育者の役割も果たします。

また、細菌学者としても衛生試験所長を務め、天然痘ワクチンの製造からツベルクリンの研究に至るまで幅広い学識と実験能力を発揮しました。

明治政府の医療制度確立のために、医師免許試験委員長などの内務官僚の職務にも専念するのです。

寄稿「万次郎と東一郎」その①

ベルツ教授の薫陶を受けている彼は、臨床医としても優れ、伝染病、肺結核はもちろん、肝臓・肺ジストマの発見（岡山）や、象皮病調査（八丈小島）などの業績もあげました。

当時の内務省には、衛生局長・長与専齋のもと、のちに「大物」となる二人の同僚、後藤新平、北里柴三郎（いわゆる三羽鳥）がいました。とくに、彼と同年生まれの後藤に対しては熾烈なライバル意識を燃やしています。

長与局長が自らの後継者に後藤を据えた（明治25年11月）時に、東一郎は、「昨日、後藤新平衛生局長二任セラル北里モ亦内務技師二任セラル趣ナリ。新平ノ得意憶フヘシ。明治政府ノ人ヲ登用スルノ明ナキ遺憾ナリ。」と正直かつ感情的に後藤に先を越された悔しさを記している（「東一郎日記、11月18日」）。

このことが契機となって、官から民に転じた、行き先は明治14年創業の「明治生命保険会社」で、第2代診査医長に就任

し（明治29年）、5年後の1901（明治34）年、創立の保険医協会の初代会長に推され、以後約30年に及ぶ最長不倒の任期を全うしました。生命保険医として、「診査医心得」、「査定標準」の制定はじめ、衛生統計学の素養を存分に駆使して、「カード・システム」の定着による「死亡統計表」の完成、業界内での死因分類の統一など、初代会長にふさわしい業績を残しています（保険医学の論文30数編）。

同時に、臨床医としても2つの病院（回生病院と鎌倉病院）で患者の診療に当たるとともに病院経営にも携わり（明治生命の勤務医との兼業ですが）、それぞれを盛業発展させる八面六臂の働きをしました。

「日記」からは彼の個人生活が読み取れますが、万次郎終焉の模様だけを見ても（明治31年11月12日）、父に対する

並々ならぬ孝養心の一端が伺い知れます。最期を看取ったことが機縁で岡本武次（大学の後輩で日本橋病院長）と鎌倉病院の共同経営者になります。

また、若いころから一か所に定住しない性癖のせいも、殆どの伝記にある「砂村にあった旧山内家下屋敷から直接、終焉の地、京橋区弓町へ移転した」のではなく、その間に少なくとも7回も転宅を繰り返した、いわゆる「引越し魔」でした。家族思いでは人後に落ちず、とくに子供の病気に一喜一憂する様子は大変な子煩悩ぶりです。

趣味として、英・独の語学はもとより、漢詩、和歌の素養もあり、将棋も有段者で、当時の財界人たち（柳沢保恵伯爵（第一生命社長）、服部金太郎（服部時計店社長）、阿部泰蔵（明治生命頭取）など）としばしば将棋大会を催して交友を深めています。

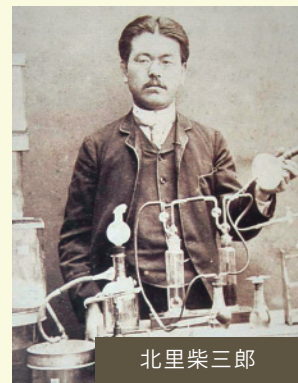
言い落してならないのは、伝記作者としても優れた力量の持ち主であったことです。晩年、死の直前まで全精力を傾注して完成させ、昭和11年に刊行された「中濱萬次郎傳」は、今日でも「万次郎研究」の出発点とも言うべき名著となっています。

生涯現役といっても過言ではないほど晩年まで働き、中央衛生会委員、専売局の健康管理医、法務省常務顧問などの要職を続けました。

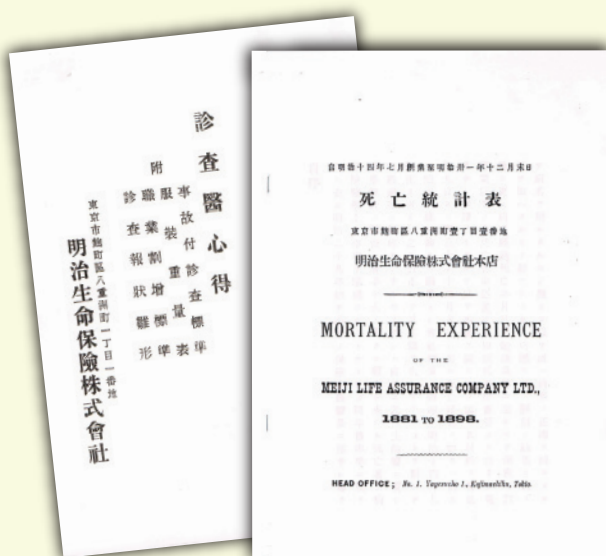
昭和12年4月11日、自宅で放射線療法を受けながら食道がんで死去されました。享年79歳の大往生でした。



後藤新平



北里柴三郎



協賛企業訪問シリーズ



第2回「明治安田生命保険相互会社」

協賛企業訪問シリーズの第2回目は、1997年から継続してご支援いただいている明治安田生命保険相互会社です。広報部広報推進グループの平井昭さんと、同グループの社会貢献活動担当の岡部久美子さんに、同社の社会貢献活動についてお話を伺いました。

お話を伺った平井昭さん(左)、岡部久美子さん(右)

明治安田生命は、生命保険会社ならではの社会貢献活動をどのように進めていくかについて議論を重ねてきました。その結果、「家族を守り、家族を支える」生命保険会社として、子どもたちの健全な成長のお手伝い、子どもたちの明るい未来づくりを目的に、2012年より「子どもの明日 応援プロジェクト」を展開しています。今日は「子どもの明日 応援プロジェクト」の中でも中心となる3つのプログラムについてお話いたします。



明治安田生命のキャラクター「うさりん」と一緒に

1.ふれあいコンサート



「トリさん」とふれあう子供たち

1つ目は昨年で30年目を迎えた「ふれあいコンサート」です。「ふれあいコンサート」は、日頃コンサートに行く機会の少ない障がいのある子どもたちに「生の音楽」を楽しんでもらう目的で、「思い出の渚」などのヒット曲のあるグループサウンズ、ザ・ワイルドワンズの「トリさん」こと鳥塚しげきさんによる手作りのコンサートです。全国各地の特別支援学校等を訪問して開催しており、鳥塚さんのほかピエロや音響スタッフが加わり、これまでの30年で全国の特別支援学校など131校を訪問しました。毎年、9月から10月の1週間(月から金の5日間)で5校を回るのですが、私たちが運営のため、鳥塚さんと一緒にワンボックス・カーでキャラバンします。

支援学校の生徒のみならず自分たちのホームグラウンドである学校でコンサートを楽しめるので、ノリもとても良く、毎回大盛り上がりです。鳥塚さんがオリジナル曲やアニメ・メドレーなどを歌っているうちに、子どもたちも、立ち上がってリズムを取ったり、歌ったり、踊ったり、本当に楽しんでくれます。子どもたちが舞台上に出てきて動物の鳴き声をする場面もありますが、いつも大勢の子どもたちが出てきて、私たちが順番の整理に大変です。もう30年もやってきていますから、鳥塚さんもコンサートの最初から子どもたちの心をぐっとつかむのが本当に上手です。2011年、2012年には東日本大震災の被災地の学校を回りましたが、その時に福島の特設支援学校の先生からは「震災後生徒たちは笑うことがなかったが、今日本当に笑ってくれて嬉しい」という感想をいただいたことが印象に残っています。

この活動は弊社の従業員募金で運営しており、訪問した地域の支社の従業員も運営を手伝っています。彼らもこのコンサートには感激して、「自分の会社はこんなすばらしいことをやっていることに誇りを感じる。」と言ってくれます。

2. 海の環境工作教室

ご紹介する2つ目は「海の環境工作教室」です。NPO日本渚の美術協会の協力を得て2007年から始めてこれまで22回開催している活動です。従業員や家族、地域のお客さまがボランティアで海岸清掃を行ない、清掃を通じて収集した貝殻やガラス、海藻、ゴミなどの漂着物等を使って工作教室を行なっています。単に海岸清掃をするだけではなく、収集したゴミや漂着物で「海からの贈り物」と呼んでいるアート作品を作るという点が大変ユニークな活動だと自負しています。開催当日の午前中は海岸清掃をしますが、海岸ではペットボトルや缶、プラスチック製品のゴミ、流木だけではなく、発砲スチロールの小さな粒や釣り針も拾います。というのは、カメや鳥などの生きものが、これらを食べてしまうと死んでしまうからです。漂着物の中には、海外から流れついたものもあり、清掃を通じた環境学習で子ども達の自然に対する思いを育んでいます。午後は「私の好きな生きもの」というテーマで工作教室をします。親子が協力して作品を作ることで親子の絆が深まるのを感じます。2013年度は全国4か所で開催し、468人が参加してくださいました。収集したゴミ等の量はこの年度だけで合計16,830lにも達し、240もの作品を制作しました。過去の作品数は1,000作品を超え、この活動も徐々に裾野を拡大しています。

せっかくの作品ですから、みなさまにも見ていただきたいということで、「シーボーンアート展」を毎年開催しています。NPO日本渚の美術協会の会員の方々が制作したアート作品の他、海の環境工作教室で制作された中から選ばれた作品も展示し、「私の好きな生きもの」コンテストも実施して、ご覧になった方々に投票をしていただきました。



海の環境工作教室の様子



NPO日本渚の美術協会会員によるアート作品



「私の好きな生きもの」コンテスト優秀作品

3. あしながチャリティー＆ウォーク

3つ目は「あしながチャリティー＆ウォーク」です。

この活動は、全社一斉で行なう社会貢献活動です。私たち従業員一人一人が、親を亡くした子どもたちの「あしながさん」となって、ウォーキングやチャリティー募金を通じて遺児たちの支援をするものです。「同じ時期」に「同じプログラム」、「全国の従業員」が一斉に参加します。この活動を通じて集まったチャリティー募金は「あしなが育英会」を通して、親を亡くした子ども達の進学支援や心のケア活動に使われています。

第3回目となった2013年度は、あしなが育英会の実施するPウォーク10への参加に加え、全国63か所で弊社オリジナルのMY(マイ)ウォークを実施することができました。おかげさまで、約1,200万円を「あしなが育英会」に寄付することができました。それに加えて、被災3県の東日本大震災遺児支援基金にも約360万円を寄贈しています。実際にウォーキングに参加した従業員は約12,000人ですが、寄付という形で参加した従業員も合わせると約38,000人になります。弊社の従業員は約4万人ですので、歩いた人数と寄付者の数を合計すると、ほぼ全従業員が参加したことになります。東京で開催したMYウォークでは、集合場所になった増上寺には約3,300人の参加者が境内を埋め尽くしてそれはそれは圧巻でした。

今日は、3つの取組みについてお話しましたが、他にも「地域安全マップづくり教室」「Hello! Baby 奨学金プログラム」「未来を奏でる教室」などを行なっていますので、ぜひホームページもご覧いただきたいと思います。



東京で開催したMYウォークの様子



増上寺境内を埋めつくす参加者

事務局だより

劇団四季 ファミリーミュージカル『ジョン万次郎の夢』、
東京で7月19日(土)開幕! 京都・大分でも巡演決定

昨年のゴールデンウィークにも上演されて大好評だった劇団四季のミュージカル『ジョン万次郎の夢』。今年も東京で7月19日(土)～8月17日(日)まで、夏休み期間中に上演されます。また、その後は京都では9月13日(土)～28日(日)の公演が決まりました。京都の後は、大分公演もあります!

史実に基づいた熱く壮大な物語は、「国や習慣が違っても、相手を信じ理解する心」や「困難に立ち向かう勇気」など、人が生きていく上で最も大切なことを、大きな感動とともに教えてくれます。

台本・構成・演出は浅利慶太さん、作曲は三木たかしさんで、大人も子どもも楽しめる感動的な作品です。

東京公演詳細

【会場】四季劇場 [秋] (東京・浜松町)

【料金】(税込) S席 大人5,800円/子ども3,000円

A席 大人3,000円/子ども2,000円 ※子ども=3歳以上、高校3年生以下

詳しい公演日程やチケット購入については、以下の劇団四季のホームページをご覧ください。

<http://www.shiki.gr.jp/applause/jonman/>



撮影：阿部章仁

劇団四季に寄せられた感想文 (「劇団四季オフィシャルウェブサイト 200字コメントより」)

● 感動しました

切実で力強いメッセージに溢れたすばらしい作品でした。万次郎の半生を辿りながら、わくわくしたり落胆したり、本当に彼と一緒に冒険しているような気分になりました。万次郎を始め、偉人達、土佐の漁師、アメリカの友や咸臨丸の乗組員に至るまで、全ての登場人物が魅力的。忘れかけていた困難に立ち向かう勇気を思い出させてくれました。(匿名希望さん)

● ジョン万! カッコいい!

嵐にあっても遭難しても希望を失わず、会ったこともなかった南蛮人の懐に飛び込んでいく勇気。国籍が違っても、身分が隔たっていても、ジョン万の熱い気持ちで、みんなの心を開くことができたのです。海の男たちの堂々とした歌声、ダンスシーンの女性達にも注目です。(香代子さん)

平成25年度寄附協賛企業一覧 (50音順)



イオン株式会社



NTTコミュニケーションズ株式会社



キッコーマン株式会社



株式会社ジェイテクト



全日本空輸株式会社



ダイキン工業株式会社



株式会社大庄



株式会社デンソー



トヨタ自動車株式会社



株式会社豊田自動織機



豊田通商株式会社



株式会社永谷園



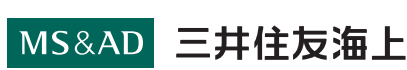
株式会社ニフコ



日本郵船株式会社



日野自動車株式会社



三井住友海上火災保険株式会社



三菱商事株式会社



三菱食品株式会社



明治安田生命保険相互会社

アイシン精機株式会社/愛知製鋼株式会社/アサヒグループホールディングス株式会社/東京海上日動火災保険株式会社
豊田合成株式会社/トヨタファイナンシャルサービス株式会社/トヨタ紡織株式会社/パナソニック株式会社/矢崎総業株式会社